



元気に、大きくなってね~!



今年初めての夏日となった5月9日(木)、伊久美小児童29名が放流を体験しました。(左写真)

子供たちは、組合関係者から放流の注意や鮎の扱い方などの簡単な説明を受けた後、バケツに移された鮎を代わる代わるに伊久美川へ放ちました。

豊かな自然に触れながら、上流へと気持ちよく泳ぎだす鮎を見守る子どもたちの笑顔が印象的でした。

今年は遡上も順調。豊漁への期待が高まります。

2013年 鮎放流 (計2,100kg予定)

月日	種別(平均重量)	数量	場所
3/21他	河口産(3~4g)	計300kg	伊久美川(長島、川口)
4/22	人工ふ化(10g)	300kg	本流(鍋島、神座、北中前)
4/25	人工ふ化(10g)	300kg	本流(神座、北中前、谷口橋)
5/9	琵琶湖産(10g)	300kg	伊久美川12か所(中平~川口)
5/19	人工ふ化(10g)	250kg	本流(鍋島、神座、北中前)
		50kg	大代川
6月~	予備	600kg	未定(河川状況で場所を選定)



伊久美川に放流した琵琶湖産



鍋島での放流(人工ふ化)。

今年は増水も少なく本流も安定しています。

河川監視員が変わります。

前任者2名に変わり、新しい3名の監視員が交替で河川を巡回します。釣り場で組合員証や遊漁証を確認しますので、着用の徹底をお願いします。

確認ができない場合は日券(現場売 800円割増)をご購入いただきますので組合員・遊漁者へのご指導もお願いします。

鮎友釣り(日券)	1,800円
鮎えさ釣り(日券)	2,800円

ウナギがいなくなる？

昨年9月、県水産資源課長名による分署で「シラスウナギの極度の不漁が続き、ニホンウナギの資源保護が必須の要件。ウナギの生態には不明点が多く、科学的知見に基づく対策は実施できていないが、まず可能なものから対応していく。そこで秋季に産卵のため降海する下りウナギ(銀ウナギ)が漁獲された場合は再放流を行うこと」を求めています。

現在、県内14漁協(38%)がウナギを漁業権魚種に指定、遊漁に係る制限や範囲を定め、保護増殖に努めています。



「レッドリストの絶滅危惧種ⅠB類に判定」と環境省が公表。資源管理の強化を求める声が高まりそうです。

←ニホンウナギの回遊



銀ウナギ(下りウナギ)全体

銀ウナギ(下りウナギ)頭部

※写真提供：九州大学水産増殖学研究室 望岡 典隆 准教授

生息数激減

乱獲、環境悪化要因か

平成24年度に全国内水面漁連が水産庁委託事業(ウナギ資源増殖実態調査)として国内122漁協を抽出、放流と漁獲実績、漁場環境の問題点、資源回復方策を聴取しました。

1. 放流、漁獲実態

対象漁協の96%が放流し、総放流量は14.5トン(昨年比△16%)、1漁協当たり平均2.5kgの放流減となりました。

放流ウナギは1尾4g~200g(1kg当り5~250本)、最多は約30g(1kg当り30本)で全体の42%。当組合でも平均30gのウナギを主に放流しています。

総漁獲量は約147.5トンで12%が遊漁として計上され、地域別では九州地域が総漁獲量の約50%。また、放流を行わなかった主な理由に種苗代の高騰を挙げ、数量の減少から入手の困難さがうかがえます。

2. 問題点

放流経費の高騰が最大の課題。また、河川環境の悪化が全体の52%を占め、河川工事や工作物

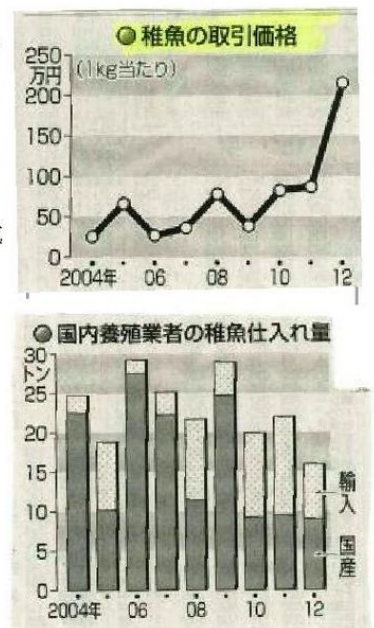
等により環境阻害が資源の減少に大きな影響を与えていると指摘しています。

3. 資源再生の方策

ウナギの隠れ家や魚道整備を含めた生息環境の改善、親ウナギの採捕とともにシラスウナギ採捕規制を求める意見が最も多く見られました。次いで種苗生産の研究開発へ期待、漁協の情報の共有、交換の場を求めていることが分かりました。

シラスウナギ価格高騰

平成18年の国内価格は1kg当り26万6千円から、24年には214万8千円と約8倍に上昇。また平成18年に約2.8トンであった国内推定漁獲量が、24年には9トン程度と低迷。農林水産省では今年の漁獲量は更に減少するものと予測しています。



(統計資料：静岡新聞 H24.4.6)

県友釣選手権大会

6月30日(日)、第60回を記念し、興津川を会場に開催されます。(予備日:7月7日)

今夏の大会は、昭和27年狩野川での第1回大会(7組合が参加)を嚆矢とし、以降先人の意思を受け継ぎ、半世紀を超える漁業史に更なる彩りを添えることになると思います。

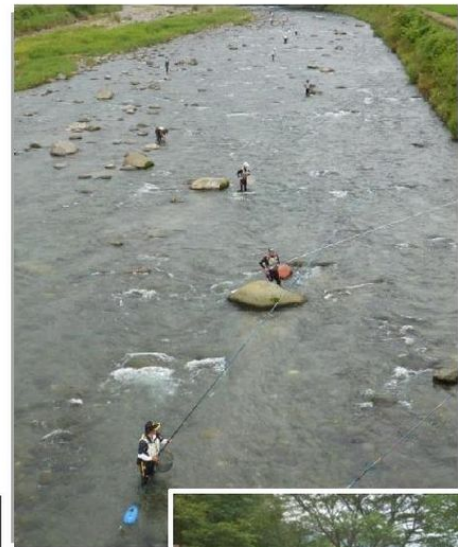
本組合でも大会共催が4回、一方優勝は団体部門11回、個人部門10回を数え、輝かしい実績を残しています。

今回の出場選手は、これまでの県大会や地区大会の戦歴、更に資質や可能性等を考慮し、次のとおり選考しました。

出場選手5名(地区名) ※敬称略

杉本和美(大井川)、酒井一(島田)、齋藤喜芳(島田)
塚本俊之(島田)、白幡光明(金谷)、西條信二(補欠)

ご健闘をお祈りし、心から声援をお送りします。



↑ 昨年の
静岡県大会
(狩野川)



↑ 昨年の地区大会(伊久美川)

個人優勝の相原知幸さん
(特種東海製紙)



地区&関係会社対抗

7月20日(土)大井川本流での開催を予定しています。第48回目を迎える地区対抗、豊かな歴史を育んできました。また関連会社部門も第17回を数え、親睦を深め組合事業に協力をいただいています。

平成20年度以降の戦跡を辿ると、地区対抗では金谷地区(H20・H24)と大井川地区が(H21・H23)それぞれ2回ずつ優勝を分け合っています。

関係会社の部は特種東海製紙が連続優勝を果たしています。今夏、地区の名誉をかけての挑戦を期待しています。(平成22年度は大会中止。)



↑ 意外と大変な防鳥テープ張り。
伊久美川解禁前には撤去します。

今年もやります!

鮎友釣り教室

<日時> 6月23日(日) 9時~12時頃

- 鮎の習性、釣具、釣法についての講義
- 鮎の友釣り、ハヤ釣り体験

<場所> 伊久美川(やまゆり集合)

<参加料> 鮎友釣り 500円(中学生以上、おとり込)
ハヤ釣り 無料(小学生以下、保護者同伴)

<募集人数> 各20名

<申込方法> 6月7日(金) 〆切

<その他> 指導員付き。釣具貸出あり
詳しくは組合へお問い合わせください。

大井川 6月1日(土) 鮎解禁

塩郷えん堤より上流 7月1日(月)

笹間川 6月16日(月)

伊久美川 6月21日(金)

ルールとマナーを守りましょう!



1月～5月業務報告

- 1/ 7 仕事始め
- 1 5 企画運営部会 ・平成 25 年度事業計画外
- 2 8 大井川漁場管理運営協議会
・漁業権更新に伴う規則等の確認外
- 3 1 監事会 (24 年度下期、決算監査)
- 2/ 6 組合員資格審査委員会
- 〃 河口産稚鮎需給調整会議 (天竜川漁協)
- 2 0 第 1 回役員会 ・総代会提出議案の審議外
- 3/ 1 あまご解禁
- 9 琵琶湖視察 (2 業者及び安曇川上流の視察)
- 1 6 通常総代会 (プラザおおるり)
- 1 8 焼津水産高校に河口産稚あゆ 30 k g 配給
- 2 1 第 1 回放流 (伊久美川、河口産 100 k g)
- 〃 中部電力と伊久美川魚道立会い
- 2 2 平成 25 年度大井川砂利対策協議会へ出席
- 2 5 第 2 回放流 (伊久美川、河口産 110 k g)
- 2 6 第 58 回県内水面漁連通常総会へ出席
- 4/ 1 島田土木事務所と工事打合せ
- 4 放流場所の調査
- 5 有害鳥獣駆除開始 (～5/31、カワウ 150 羽)
- 9 新大井川漁協へ河口産あゆ 100 k g 配給
- 〃 第 3 回放流 (伊久美川、河口産 90 k g)
- 1 1 企画運営部会
- 1 4 河口産稚あゆ採捕終了 (採捕数 530 k g)
- 1 5 カワウモニタリング調査① (3 地点、6 名)
- 〃 新大井川漁協へ河口産あゆ 100 k g 配給
- 1 6 伊久美川テグス張り (中平～川口 約 80 本)
- 〃 県内一斉カワウ追い払い (～4/25)
- 1 9 島田土木事務所長外と協議 ・河川工事等
- 2 2 第 4 回放流 (本流 3 か所、人工ふ化 300 k g)
- 2 3 島田土木と工事打合せ
- 〃 大井川河川敷地利用協議会 (国交省)
- 2 5 第 5 回放流 (本流 3 か所、人工ふ化 300 k g)
- 2 6 カワウモニタリング調査② (3 地点、6 名)
- 5/ 9 第 6 回放流 (伊久美川、琵琶湖産 300 k g)
及び伊久美小児童による放流体験
- 1 0 関係会社へ挨拶廻り・警察署へ取締協力依頼
- 1 5 組合員資格審査委員会 (新規加入者の審査)
- 1 8 伊久美川魚道土砂排除
- 1 9 第 7 回放流 (本流、大代川、人工ふ化)
- 2 1 小・中学校へ釣り教室の案内
- 〃 第 2 回役員会 ・資格審査、釣り振興大会外
- 〃 監視計画の打合せ
- 2 4 玉石還元作業
- 2 8 監視員事前研修①

ご協力をお願いします。

鮎釣り教室開催にあたり、使わなくなった鮎竿・おとり缶・玉網等がありましたら、組合にぜひご提供ください。また、友釣りの指導員も数名、大募集しています。(基本的な技術の指導です。)

組合からのお知らせ

鮎釣り大会開催日

静岡県大会 6月30日(日) 興津川

地区大会 7月20日(土) 大井川本流(予定)

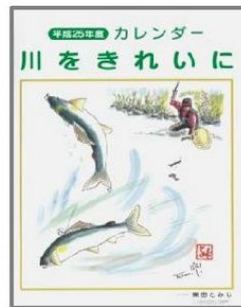
一般大会は川況により開催を判断します。(8月下旬)
各種大会の詳細はホームページで随時お知らせします。

投網・たも網 9月1日解禁

たも網・投網を希望される組合員は8月20日までに担当地区長までお申し込みください。

尚、申込状況によってはご希望に添えない場合があります。

2014年 漁協カレンダー



カレンダー(県内河川釣り場・風景の写真)好評につき、来年分を有料でご用意できることになりました。ご希望の方は8月末日までに希望部数を組合へお申し出ください。

※ 今年のカレンダーです。

A2判(7枚綴り) 1本400円

表紙は黒田とみじさんの鮎のイラストです。



編集後記

蒲焼が食べられなくなる?心配する声が大きくなっています。

ウナギの漁獲量を基に推定すると、最近3世代(12~45年)の間に72%~92%も減少した計算になると言われています。ウナギ資源を天然漁獲に依存していることで、種苗の漁獲量が生産量を規定してしまうことも原因の1つかもしれません。卵から養殖して育てる研究も進んでいますが…今号は近い将来絶滅が危惧される天然ニホンウナギについて考えてみました。(小林)

釣り情報(テレホンサービス)

0547-32-9240 (自動応答)

公式ホームページも大幅にリニューアル!
ぜひご利用ください。